

現在のお仕事

コールセンターで正社員で働いています。周りのアルバイトやパートの方々が電話に出て、クレームや分からない事を聞かれた時に手を挙げられるので、その対応を行っています。スーパーバイザーの手前です。

りぼら参加のきっかけ

りぼらに参加した時は前の職場で、元々（当時の仕事を）辞めたいなと思っていたのですが、（がんの）手術が終わって復職したばかりの状況で、コロナ渦にもなったから、（転職は）諦めたほうがいいのかなど思っていたところ、ハローワークでりぼらの事を教えてもらいました。当時は変わりたいと思っても、なかなか行動に移せていないような感じですかね。中々踏み出せない。これからは全く職種の違う仕事に就きたいと思っていたので、一般企業に就職するためにリハビリができればと思って期待していました。

りぼらに参加してみて

自分の経験を話して、みんながポジティブな返しをする時間が、楽しかったですね。自分が気づかないところの誉め言葉があって。私がパートさんやアルバイトさんを嫌な客から守りながら働いていることを大事にしているということ、その経験についても評価されるわけですよ。ああそういう風に思われるんだ、それは間違ったことではなかったんだとより強く思えて、今の行動に繋がっているという感じですかね。自分自身に対しても、仕事内容についても、こういう良いところもあるんだなと思えて、モチベーションが上がったような。

1週間テレワークの体験ができたことも良かったです。パソコンで作業することが、前の職場ではあまりなくて、テレワークでパワーポイントを使ってチラシを作る経験で、色々調べながらやったりして、パソコンを使って仕事をするのを思い出せて良かったと思いました。

りぼらを終えた自身の変化

当時の仕事は接客業ばかりだったので、次の会社へのアピールにならないだろうなと自信を失っていたのですが、プログラムの中で、自分が大事にして働いていることを「りぼらキャリアノート」に記入する時間があって、私が大事にしている「社員が見本になって”パートさんとアルバイトの方を守ること”を守れるような仕事ってどういうものがありますかね？という話をカウンセラーとしているときに、今のお仕事を出してもらったんです。それで受けてみようかなと思えて、頑張ろうという気持ちになれました。りぼらを受ける前までは、自己分析や大事にしたいこと等は意識していなかったです。私が（これまで）転職していた接客業界はコロナになる前までは人出不足で、自分の大切にしていることなんて全

【参考資料】患者プログラム参加者インタビュー② 参加者：Bさん

く意識せずに、面接では「いつから来れるの？」ですぐ決まっていました。今回、りぼらで考えて出てきた自分のいい部分が、就職書類の文面を書くのに結構役立ったりしました。

(転職活動中に) 一度、りぼらの卒業生で近況を発表する会があって、その時に、就職活動の面接の時に遭った嫌なこととかの話をして、私だけじゃないんだなと思って、精神的に楽しくなるような会でした。自分だけが辛いとか腹立っていると、やってらんない!と思うけど、見えないところに同じ条件の方がいると思うと、仲間がいるんだと思えて、やっぱりモチベーションになるとは思います。

転職先が決まって、前の会社に辞めると言ったあとに、(がんが)再発して、その時はどうしようと思ったけど、再発したことを転職先の会社に伝えるにはどうすればいいのかをりぼらプログラム担当のお二人に slack(*)上で、相談・報告していました。たまたま転職した会社が東京都からがん患者や難病患者の就職支援で表彰をもらっている会社で、試用期間中に手術をしました。そういう時にも相談にのってもらえたのは良かったと思いました。

りぼらはどういう場であったか

大事にしているものを再認識することができて、モチベーションがアップするきっかけになりました。

また、転職しない人・同じ会社に戻る人でも選択肢になるかとも思いました。「抗がん剤で体力ももたない、会社も毎日続けられないし自信が持てない」というような人が「もう辞めたほうがいいのか、どうしよう…」と復職を迷っているときに役立つと思います。その時にテレワークのしごと体験をして、じゃあ総務とか現場仕事じゃない仕事だったらできるかもって思えると、会社に掛け合うきっかけになるじゃないですか。

以上

*slack … りぼらプログラムで使用している、コミュニケーション用のチャットツール。